

2023 年度実施状況等調査報告書

調査団体	国立大学法人 埼玉大学
事業名	氷川の杜を舞台に実践する SDG s : 共存から共生へ
調査日時	令和 5 年 11 月 11 日 (土)
実施形態	オンライン (ZOOM)
<p>報告事項</p> <p>1. イベント見学について (10 時 00 分～12 時 20 分)</p> <p>1) イベント名 : 事前学習 : 氷川の杜の歴史、自然と文化、人々の暮らしについて学習する</p> <p>2) 参加対象 : 外国人留学生、日本人学生、地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含む)、団体スタッフ等</p> <p>3) 参加者数 : 53 名 (うち、外国人留学生 34 名、日本人学生 5 名、地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含む) 10 名、団体スタッフ 4 名)</p> <p>4) 概要 :</p> <p>本イベントは、3 日間のワークショップのうち初日の事前学習としてオンライン (ZOOM) で実施された。国立大学法人埼玉大学の中本進一教授より開会挨拶として講師 (氷川参道対策室)、ゲスト (大宮観光ボランティアガイド会員) の紹介及びプログラムの趣旨説明があり「埼玉県の歴史や地域住民について知ること」「国際交流をすること」「大切なのは楽しむこと」が趣旨として伝えられた。オンライン参加した学生は 4 グループ (A～D) でブレイクアウトルームに分けられた。</p> <p>氷川参道対策室講師 2 名より歴史・自然・文化等、氷川の杜の概要について、講演された。講演後は再度ブレイクアウトルームに分かれ、学生同士、講演の感想や疑問点を共有した後、質疑応答の時間が設けられた。学生からは「何故、氷川参道は 2 km もあるのか」という質問があり、参拝をするためには「心を静める」「感謝する」「人のためにお祈りする」「自分のためにお祈りする」という 4 つの参拝の心得が関係しており、一の鳥居から氷川神社までの約 2 km の参道を歩くことによって本殿に到着するまでに心を静めることができるためである旨、大宮観光ボランティアガイドの方より説明された。</p> <p>学生グループトークのまとめでは「日本人と実際に話をして日本の文化や歴史を学べて貴重な機会だった」という旨、学生より発表された。氷川参道対策室からは「12 月 2 日 (土) に実施予定の体験学習 (氷川の杜を清掃する、氷川参道を歩く、苔玉体験 + 盆栽美術館見学) では、今の日本文化に触れて何かしら得てもらい、景色等も楽しんでもらいたい」旨、大宮観光ボランティアガイドからは「オンライン講義として氷川参道対策室の方々に氷川の杜についてレクチャーしていただいたので 12 月 2 日 (土) はブラッシュアップして臨みたい」旨、話された。地域の国際化に関わる人々のネットワークをつくり日本文化を継承し若い世代に繋げていくことは大きな財産になると思われる。</p> <p>2. 実施状況等調査 (ヒアリング) について (12 時 20 分～12 時 49 分)</p> <p>・概要 :</p> <p>今年度の実施計画・予算の管理について確認した。参加者を確保するため呼びかけ等で周知し、ポスターは日本語版と英語版を作成し目を引くことができるデザインにした旨、説明があった。その他、本助成事業に係る意見交換を行い、要望等を伺った。</p>	